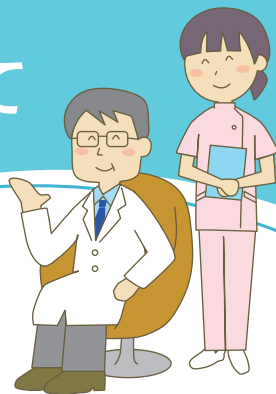


熱性けいれんの 予防法について



保護者の皆さまへ

川崎市立多摩病院小児科部長
聖マリアンナ医科大学小児科教授
岩崎 俊之 先生 監修

はじめに

乳幼児期（生後6か月から満5歳まで）には、発熱時に発作（けいれん、脱力など）を起こすことがたびたびあり、熱性けいれんと診断されることがあります。熱性けいれんが止まりにくい、あるいは繰り返しやすいお子さまには、発熱時に抗けいれん薬（ダイアアップ坐剤）を使用するように主治医から指示されることがあります。この方法により、熱性けいれんを予防することが一定確率で可能です。

裏面にその使用方法を記しますので、よくお読みになって、発熱時に適切に対処しましょう。



ダイアアップ坐剤の使用方法 >>

高田製薬株式会社

DAP-S11 (5)
2024年7月改訂

熱性けいれんの 予防法について



保護者の皆さまへ

川崎市立多摩病院小児科部長
聖マリアンナ医科大学小児科教授
岩崎 俊之 先生 監修

はじめに

乳幼児期（生後6か月から満5歳まで）には、発熱時に発作（けいれん、脱力など）を起こすことがたびたびあり、熱性けいれんと診断されることがあります。熱性けいれんが止まりにくい、あるいは繰り返しやすいお子さまには、発熱時に抗けいれん薬（ダイアアップ坐剤）を使用するように主治医から指示されることがあります。この方法により、熱性けいれんを予防することが一定確率で可能です。

裏面にその使用方法を記しますので、よくお読みになって、発熱時に適切に対処しましょう。



ダイアアップ坐剤の使用方法 >>

高田製薬株式会社

DAP-S11 (5)
2024年7月改訂

ダイアップ®坐剤4・6・10(ジアゼパム坐剤)を 使用されている保護者の方へ

坐剤使用のタイミング

37.5℃前後の発熱

↓ **できるだけ速やかに**

ダイアップ坐剤(以下、坐剤)を1個、
肛門内に確実に挿入しましょう

【38℃以上の発熱が続く場合】

8時間後にもう一度だけ坐剤を挿入
してください

副作用

一時的に下記症状が現れることがあります
時間とともに軽くなりますので、特に心配は要りません

- ・ ねむけ
- ・ ふらつき
- ・ 興奮状態

※症状が強い場合や、長く続く場合には、医師の診察
を受けてください

挿入方法と解熱剤との併用

坐剤挿入後30分間

坐剤が肛門からもれていないことを
確認してください

【坐剤が明らかにもれている場合】

新たに挿入しなおしてください

【ダイアップ坐剤に解熱の坐剤を併用する場合】

ダイアップ坐剤



挿入後、30分以上 間隔をあける

解熱の坐剤

※両坐剤を同時に使用すると、
ジアゼパムの初期の吸収が阻害される可能性があります

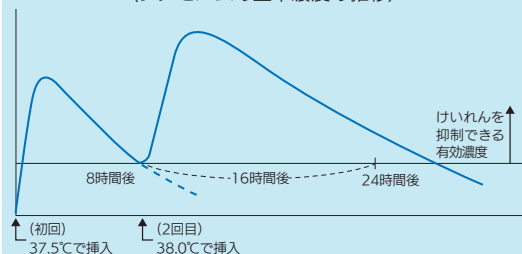
予防の意味と注意点

◆ **医師の説明をよくお聞きになって**、上記の方法に
より熱性けいれんの予防に努めましょう

この方法により、発熱初期の挿入のタイミングさえ
合えば、ほとんどの場合、熱性けいれんを予防できます

※これは、熱性けいれんが発熱後24時間以内に生じる
ことが多く、この2回投与法によりその間の十分な
血中濃度が保たれるためです(下図)

(ジアゼパムの血中濃度の推移)



◆ 坐剤を使用した場合には、
発熱の状況や坐剤の使用時間などを
メモし、次の受診時に提出してください

・ 00:00	発熱 (XX.X℃)
・ 00:00	ダイアップ坐剤挿入
・ 00:00	XX.X℃
・ 00:00	解熱の坐剤挿入

坐剤が適切に使用されたか
どうかを判断するために、
大切な資料になります



使用方法に関する動画

二次元コードからご覧いただけます ▶



ダイアップ®坐剤4・6・10(ジアゼパム坐剤)を 使用されている保護者の方へ

坐剤使用のタイミング

37.5℃前後の発熱

↓ **できるだけ速やかに**

ダイアップ坐剤(以下、坐剤)を1個、
肛門内に確実に挿入しましょう

【38℃以上の発熱が続く場合】

8時間後にもう一度だけ坐剤を挿入
してください

副作用

一時的に下記症状が現れることがあります
時間とともに軽くなりますので、特に心配は要りません

- ・ ねむけ
- ・ ふらつき
- ・ 興奮状態

※症状が強い場合や、長く続く場合には、医師の診察
を受けてください

挿入方法と解熱剤との併用

坐剤挿入後30分間

坐剤が肛門からもれていないことを
確認してください

【坐剤が明らかにもれている場合】

新たに挿入しなおしてください

【ダイアップ坐剤に解熱の坐剤を併用する場合】

ダイアップ坐剤



挿入後、30分以上 間隔をあける

解熱の坐剤

※両坐剤を同時に使用すると、
ジアゼパムの初期の吸収が阻害される可能性があります

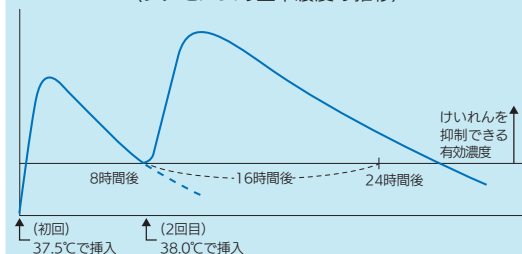
予防の意味と注意点

◆ **医師の説明をよくお聞きになって**、上記の方法に
より熱性けいれんの予防に努めましょう

この方法により、発熱初期の挿入のタイミングさえ
合えば、ほとんどの場合、熱性けいれんを予防できます

※これは、熱性けいれんが発熱後24時間以内に生じる
ことが多く、この2回投与法によりその間の十分な
血中濃度が保たれるためです(下図)

(ジアゼパムの血中濃度の推移)



◆ 坐剤を使用した場合には、
発熱の状況や坐剤の使用時間などを
メモし、次の受診時に提出してください

・ 00:00	発熱 (XX.X℃)
・ 00:00	ダイアップ坐剤挿入
・ 00:00	XX.X℃
・ 00:00	解熱の坐剤挿入

坐剤が適切に使用されたか
どうかを判断するために、
大切な資料になります



使用方法に関する動画

二次元コードからご覧いただけます ▶

